

ヲ有スルヲ以テ其代理ノ消滅シタルト同一ナルヘシ本法ニ於テ此兩場合ニ方テ取テ審理ノ中止ヲ爲サシメサルハ妥當ト云フヘシ云々トアルナリ然レモ本法ニ依レハ正ニ丁年ニ達シタル未丁年者ノ類(本法第二百十九條並ニ第二十條ニ對スル第三解參看)ハ能ク之ヲ知了シ反テ原被告本人ハ其訴訟代人ノ劇カニ死亡シタル時ハ之ヲ知了セスト爲スハ甚タ妥當ナラサル理由ヲ取ルモノト云フヘシ蓋法律ハ百義ヲ包容ストノ古言モ空カラサラン乎

又理由説明ニ曰然レモ是妨礙(本條ニ於テ明示セル中止ノ原由ヲ云フ)ヲ除却セシムルニハ別ニ鄭重ナル審理再開ノ手續ヲ要トスルニ非ラス只原被告ハ新タニ任命ヲ爲シ且之ヲ對手人ニ通知スレハ則可ナリ(ハシノフル)國訴訟法第七十一條第四全國草案第二百十七條第二序漏生國草案第七百七十四條參看)若シ原被告之レヲ怠ルルハ對手人ヨリ之ヲ促カスヘシ尙ホ其指定シタル期限ノ經過シタルキハ裁判所ヨリ審理ノ中止ヲ廢棄ス可キナリ(序漏生國草案第七百七十五條北部獨乙聯邦草案第二百九十條參看)又本案審理ノ爲メ訴訟本人親ヲ呼出サレテ出廷セス若クハ代言人ヲ以テ代理セシメサル時是レ固ト審理ノ再開ニ付キテハ別ニ程式ヲ要セサルカ故ニ再開ノ爲メ缺席判決ヲ俟ツヘカラサル所ナレモ亦遂ニ前段ノ成績ニ同キナリ而シテ如此場合ニ於テハ其缺席審

理ハ一般ノ通則ニ從フヘキモノト云々

〔第二解制定ノ沿革(本法第二百十九條並ニ第二百二十條ノ第二解參看) 北部獨乙聯邦草案ハ其主要ニ付キテ同一ナリ(本法第二百十七條第六解參看然レモ本條ノ趣義ヲ數條ノ細項ニ分別シ煩雜ナルカ如クナルモ却テ理會シ易キナリ其他ノ小異同ニ付キテハ下ノ第五解ヲ參看スヘシ他ノ各草案皆同一ナリ

〔第三解能力ヲ失フ〕 代言人ハ代言人條例ニ據リ代言ノ職ヲ失ヒ又ハ刑法第三十一條ニ依リ之ヲ失フタルキハ代理能力ヲ失フヘシ然レモ其形体上及ヒ精神上ノ變狀ニシテ代理ニ堪ヘサルニ至レルモノヲ算入セサルヘカラス例ヘハ發狂ノ類是ナリ又解任豫告ニ付キテハ本法第八十三條ヲ參看スヘシ

〔第四解職權上ノ處分ヲ爲サス〕 本法第二百二十七條ニ依レハ審理中止ノ場合ニ方テハ裁判所ハ更ニ職務上ノ行爲ヲ爲スヘカラサルナリ故ニ裁判所ハ代言人ノ死亡其他ノ通告ヲ受ルルキハ則チ會テ指定シタル期日ヲ日課簿ニ抹殺スルノミ然シ職務上ノ妨礙ヲ爲スハ決シテ少ナラサルナリ

若シ其期日ノ指定ハ數日後ニ在リテ原被告自ラ新タナル代言人ヲ委任シ得ヘク又ハ之ヲ爲サ、ルキ怠慢ニ陷ルモ尙ホ能ク對手人ハ適當ノ時期ヲ以テ處理シ得ヘク(下ノ第

五解參看豫メ察知スヘキ場合ニハ日課簿ノ期日抹殺ヲ俟ツヘキナリ
 必竟裁判所ハ此日課簿ノ期日ヲ塗抹スルノ外ハ自ラ所働者ノ位地ニ居テ原被告若クハ
 其對手人自ラ之ヲ促カスマテ俟ツヘキモノトス
 然シ新代言人ノ委任ニ付キテハ裁判所モ亦通知ヲ受クヘキモノニシテ而カモ本條第一
 項ニハ對手人ニ通知スルノ明文ナリ然レモ本法第二百二十七條ニ依リ此通知ハ書
 面ノ送達ヲ以テ爲シ其謄本ヲ裁判所書記局ニ差出スヘキナリ〔本法第二百二十四條參照〕
 〔第五解、對手人ノ行爲〕未タ代理人ヲ定メサル原被告ノ遲延ト稱スルニ一定ノ要件アリ
 リテ能ク之レニ適スルキハ則對手人處分ヲ爲スヘシ〔本法第二百十六條第六解參看〕
 乃對手人ハ二様ノ方法アルナリ其一ハ怠慢スル原被告ヲ審理ノ爲メ呼出シ得ヘシ此呼
 出ハ〔北部獨乙聯邦草案第三百八十九條參看〕本法第九十二條ニ准シ代言人ヲ任定ス
 ヘキ督促ヲ包含シ且原被告ニ充分ナル答辯期限〔本法第九十八條第一解第一第二
 二十六條第一解參看〕ヲ與ヘアラサルヘカラス若シ右ノ趣義ニ適當シ得ル場合ナレハ
 先ニ指定シアル期日ニ呼出スモ妨ケサレモ然ラサルキハ其期日ヲ變更シ新期日ヲ指定
 セシメサルヘカラサルナリ〔本法第九十三條參看〕
 他ノ一方法ハ即〔北部獨乙聯邦草案第三百八十七條第二項參看〕本條ニ據リ對手人ハ裁

判長ヲシテ審理ノ再開ヲ確定セシムルニ在ルナリ之ニ反シ北部獨乙聯邦草案ハ法律上
 ノ答辯期限ニ據ルヘキモノト定メアリ
 次テ對手人ハ其原被告本人ニ書面ヲ送達セシメテ〔本法第二百二十七條參看〕以テ裁判
 長ノ指定シタル期限内ニ更ニ代言人ヲ任定シテ出スヘキヲ要求ス若シ此期限ヲ怠ル
 キハ則本條ニ從ヒ〔北部獨乙聯邦草案〕ハ之レアラサル所ノ嚴酷ナル結果ヲ成シ即此
 時機ヲ以テ審理再開ヲ始メ本人之ヲ視認メタルモノト認定セラル、ナリ乃代言人ノ死
 去等ノ以前ニ於テ指定シタル期日ニシテ〔其期限ノ長短ハ裁判長ノ量定ニ任スル〕新定
 期限後ニ當ルキハ則先キノ期日ハ能ク守ラレタルモノト云フヘキナリ
 又此種若クハ他ノ種ノ送達及ヒ以下ニ指ス送達ハ本法第六十條ノ規定ヲ俟タヌ外國
 ニ住居スル原被告ニハ本法第六十一條ノ規則ニ從テ之ヲ爲スヘシ然レモ本條第二項ニ
 於テ之ヲ必需スル如ク原被告ノ代言人任定ヲ懈リタル場合アルコ限ルナリ此趣義ヲ敷
 衍シテ更ニ本法第三百條第二及ヒ第三百二條ノ趣義ヲ參酌スレハ即最初ノ送達ハ通常
 ノ手續ニ據テ爲スヲ良トス而ノ必竟本條ノ末段ハ原被告ノ住所不分明ナル時ニ方テ
 適用スヘキモノニシテ〔本法第八十六條參看〕又郵便ニ託シテ送達スルニハ元ト自ラ
 指名セル宛名ヲ以テ爲スヲ必要トスルナラン〔本法第六十條並ニ第六十一條ノ第

五解參看

不從順ナル原被告ニ對スル別段ナル缺席ニ關スル審理〔本法第二百七十七條第四項〕ハ本條ニ於テ規定シアラサルナリ〔上ノ第一解參看〕

〔第六解、數名ノ代言人〕原被告ノ一人數名ノ代言人ヲ任シ置クハ各代言人ハ代理スルノ權ヲ有ス〔本法第八十條參看〕故ニ其中ノ一名適シ死去スト雖モ爲メニ本人ハ辯護ヲ空フシアルニ非ラス而テ本條ヲ適用スヘキモノニ非ラサルナリ〔本法第二百七十七條第四解參看〕

第二百二十二條 〔全上五裁判所故障アルニ因ルノ條〕

戰爭其他ノ事故ニ因リ裁判所ノ行務ヲ停止スル時其狀況ノ繼續スル間ハ審理ヲ中止スルモノトス

〔第一解理由ノ説明〕本條ニ對スル理由説明ハ本法第二百七十七條第一解第三ヲ參看スヘシ又本條ノ制定沿革ニ付キテハ本法第二百十九條並ニ第二百二十條ノ第二解ヲ參看スヘシ各草案ハ其行文モ皆同一ナリ

〔第二解解釋〕抑、此行務ヲ止ムヘキ事故ハ種々之レアリ得ヘシ例ヘハ本法第二百二十四條ニ舉クル通路ノ杜塞ハ其裁判所々在地ニ係ル時又、僅ニ一人ノ在勤ノ區裁判官死

去セル時ノ類亦然リトスヘキナリ

審理ヲ再開スルニ付キテハ之ヲ必要トスルキハ適當ノ書面〔本法第二百二十二條〕ニ呼出テ載セアルモノヲ送達シテ之ヲ爲ス〔本法第二百二十六條第一解參看〕但其期限經過ニ關スルモノナレハ呼出テ載スル書面ヲ送達シテ再開スルヲ要セス必竟中止ヲ停ムル以上ハ法律上自ラ其期限ノ進行ヲ始ムレハナリ〔本法第二百二十六條〕

第二百二十三條 〔審理ノ延期（一）訴訟代人ヲ以テ代理セシメアル原被告本人ノ死亡等ニ因ルノ條〕

法律上代人ノ死亡、訴訟能力ノ失却又ハ其代人ノ缺ル場合〔本法第二百十七條第二百十九條〕ニ於テ訴訟代人ヲ以テ代理セシムル時ハ審理ノ中止ヲ爲サ、ルモノトス但受訴裁判所ハ其訴訟代人ノ申立ニ因リ審理ヲ延期シ又ハ死亡ノ場合ニ在テハ亦對手人ノ申立ニ因リ審理ノ延期ヲ命ス可シ
審理延期ノ時限及ヒ繼續ニ付キテハ第二百十七條第二百十九條第二百二十條ノ規則ニ從フ其死亡ノ場合ニ於テハ呼出テ記載シタル書面ヲ訴訟代人ニモ亦送達ス可シ

〔第一解理由ノ説明〕蓋本法第二百十七條第二百十九條ノ場合ニ於テ若シ其審理ノ中止ヲ爲サハルキハ則原被告ハ對手人ニ對シ代理ヲモ出シアラス且自護ヲモ爲シアラスト云フヘシト雖モ然カモ訴訟代人ヲ出シアル以上ハ然リト爲シ難カルヘシ〔本法第二百十七條第一解參看〕抑委任ハ授任者ノ死亡又ハ其訴訟能力ノ變更若クハ其法律上代人ノ訴訟能力ノ變更ニ因テ消滅セサルモノニシテ〔本法第八十二條〕即受任者ハ仍然訴訟ヲ繼續スルノ權利義務アルモノトス然レモ原被告本人ノ死亡等ノ變更ニ因テ生スル成績ハ種々アリ得ヘク設ヒ原被告本人ノ躬カラ爲スヲ要スル行爲ニ關セサルモノナリ且然ルヘキナリ乃本法第八十二條ノ規則ハ必ス受任者ヲ訴訟繼續ニ羈絆シ且代理解任ノ豫告ヲ爲スノ權ナシト云フノ甚キ嚴法ニハ之レアラサレハ復タ其代理受任者ヲシテ其或ハ一面ノ識モナキ新授任者ヨリ更ニ代理委任ヲ受ケ且其示意ヲ承クルヲ俟テ審理ヲ繼續スルヲ得セシムルヲ要トスヘシ而テ本法ニ於テハ其事件上ヨリ自ラ中止ヲ爲サシメスシテ命スヘキ延期ハ訴訟代理ノ受任者ノ申立ニ因ラシメタルナリ〔北部獨乙聯邦草案第三百八十條「サックセン」國草案第五百四十六條參看〕而シテ裁判所ハ必ス其申立ヲ許容スヘキ義務ヲ負フノ義ナリ然ルニ他邦ノ法制「ハンノフル」國訴訟法第六十九條「バイルン」國全上第四百九十一條「ハンノフル」國草案第二百十三條「李漏生」國草案第七

百六十三條等參看〕ニ於テハ訴訟代人ハ必ス本人ノ死亡ヲ告知スルノ義務アリテ而シテ其告知アル後審理ノ延期ヲ爲スト定メアルナリ然リト雖モ其訴訟代人ハ仍然審理ヲ繼續スルノ思念ヲ有シ且充分ニ本人ノ示諭ヲ承ケアルモ尙ホ且延期スヘキ理由ニ至テハ實ニ了解スヘカラサルナリ又對手人タル者ニ於テモ向後曾テ識ラサル所ノ或ハ敢テ爭訟ヲ欲セサル者ト訴訟ヲ繼續スルノ場合ナキニシモ之レアラサルカ故ニ本法ニ於テ死亡ノ場合ニ於テ規定シアルカ如ク設ヒ敵手訴訟代人ノ繼續スルモ對手人ニ於テモ復タ審理ノ延期ヲ請求シ得ル權利ヲ付與スルナリ〔「ウエルテムベルグ」國訴訟法第二百九十六條北部獨乙聯邦草案第三百八十條參看〕

其命シタル審理ノ延期及ヒ審理ノ再開ニ付キテハ本法第二百十七條第二百十九條第二百二十條ノ規則ヲ適用スヘシ又此場合ニ於テ呼出テ相續本人ニ爲スヘシトスル所ハ本法第八十二條ノ原則ニ反カサルノミナラス殊ニ何人ニシテ果シテ原被告ノ相續人タル乎ノ疑問アル時ニ於テ良シトスルナリ本法ニ於テハ單ニ對手人カ審理再開ノ爲メ何人ヲ呼出ス乎全ク對手人ノ意ニ任カスナリ且本人死亡ノ場合ニハ必ス從來ノ訴訟代人ヲモ亦呼出サシムヘシ何ントナレハ實驗上多數ノ場合ハ從來ノ代人仍ホ訴訟代人ヲ繼續スレハナリ〔北部獨乙聯邦草案第三百八十五條參看〕代言人訴訟ニ於テハ原被告ニ爲ス

送達ハ本法第九十二條ノ送達受取人ニ爲スヲ以テ足レリト爲サ、ルヘカラス

〔第二解、制定ノ沿革〕 此沿革ニ付キテハ本法第二百十九條並ニ第二百二十條ノ第二解及ヒ前述ノ北部獨乙聯邦草案ヲ參看ス、シテ而シテ各草案皆同一ナリ

〔第三解、延期〕 延期ノ中止ト相異ナル所ハ即延期ハ本條ノ場合ニ於テハ原告ノ申立ニ因リ又本法第二百二十四條ノ場合ニ於テハ裁判官ノ命令ヲ要トシ更ニ法律ノ力ニ依ラサル所ニ在リ其他ノ差異ニ付キテハ本法第二百二十五條第五解ヲ參看ス、シテ〔本法第二百二十六條及ヒ第二百二十七條第一解參看〕

〔第四解、分散處分ノ開始〕 蓋分散處分ノ開始ハ本條ニ依リ更ニ關係ヲ有セス乃原告本人ノ生存中〔本法第二百十八條〕ニ於テスルト又ハ其遺産ニ付キテ〔本法第二百二十條〕之ヲ開始スルトヲ論セス本法第二百十八條ノ命スル限リハ適、訴訟代人ノ之レアルヲ以テノ故ニ審理ノ延期ヲ廢棄シ得ス是レ必竟官ニ原告ノ利益上ニ出ツルニ非ラス專ラ分散權利者ノ利益ナルニ據ルナリ〔本法第二百十八條第二解參看〕

〔第五解、延期スヘキ他ノ場合〕 審理ヲ延期スヘキ他ノ場合ニ付キテハ宜ク本法第二百二十九條第三解ヲ參看ス、シテ

第二百二十四條 〔全上〕(一)原告本人ニ障碍アルニ因ルノ條

原告ノ一方戰時兵役ニ服從シ又ハ官司ノ命令又ハ戰爭若クハ其他ノ事變ニ因テ受訴裁判所トノ交通杜塞シタル地方ニ滞在スル時受訴裁判所ハ職權ヲ以テモ亦其障碍ノ消滅スルマテ審理ノ延期ヲ命スルコトヲ得

〔第一解、理由ノ説明〕 抑、本條ハ專ラ帝國徵兵令ニ繫累シテ即一朝戰端ヲ發ラクニ方テハ多數ノ人民ハ兵役ニ召徴セラレ、ヲ以テ此規定ヲ設ケルノ必要アルナリ〔李滯生國裁判通法第一篇第二十章第九條乃至第十二條同國草案第七百六十條北部獨乙聯邦草案第三百九十二條參看〕右ノ主義ニ基キテ更ニ北部獨乙聯邦草案第三百九十二條〔千八百七十二年起稿ノ李滯生國草案第二百八條ニ於ケル如ク〕ハ尙ホ一ノ規則ヲ掲ク乃戰爭ヲ開クニ方テ國議院ノ開場ニ至ラス從テ帝國法ヲ制定頒布ヲ爲シ得サルハ勅宣ニ因テ軍人訴訟ノ延期ヲ命シテ能ク法律ノ力ヲ有セシムルナリ蓋此法制タルハ頗ル妥當ニシテ且便宜ノ良法タレヒ之ヲ要スルニ訴訟法ニ屬スヘキニ非ラス憲法ニ屬スヘキナリ是故ニ本法ハ敢テ之ヲ侵カサルナリ〔内閣代理員ハ皇帝ノ握有スル如此キ權利ハ固トヨリ理ニ於テ當然ナリト明言シタリキ尙ホ本法第二百二十九條第二解參看〕

上來説述スル所及ヒ本法第二百十九條並ニ第二百二十條ノ第二解ニ就テ本條制定ノ沿革

革ヲ見ルヘシ其他ハ各草案皆同一ナリ
 [第二解、兵役] 本條ノ趣義ハ只獨乙内國ノ陸海軍ニ屬スルモノヲ云フモノニシテ他
 及ホサハルナリ然ラサレハ則本條ノ待遇ハ遂ニ獨乙國ト相戰フ敵人ニモ此權アルモノ
 、如ク看倣サハルヘカラサルヘシ蓋本條ノ因據ハ即孛漏生國千八百六十六年七月二日
 ノ宣令ニ摸倣セル北部獨乙聯邦千八百七十年七月二十一日頒布ノ法例ニ在ルナリ
 乃此法例ハ法朗西トノ戰爭時中ニ施設シタルモノニシテ即軍人訴訟ノ延期ヲ命令セル
 ナリ而シテ其明文ハ概シテ軍人ニ對シテ制定セリ然ルニ法朗西人ハ之ニ服從セス當時
 獨乙國ニ於テ訴訟ヲ爲スモノ往々之レアリシ乃該法例第二條第二項ノ明文ニ於テ徵ス
 へキナリ

蓋該法例第二條第二項ニ依レハ敵人ノ俘虏トナリテ護送セラレタル囚人又ハ質モ亦軍
 人ト同視シテ定メアリ是レ當時ノ敵人ニ限リテ然ルモノト爲セルナリ

此質及ヒ俘囚ニ付キテハ其受訴裁判所トノ通路杜塞スル時ハ本條ニ據リ得へキナリ
 [第三解、戰爭時ニ於テ] 戰爭時トハ即獨乙國ノ兵亂ニ罹リタルヲ指スモノニシテ而シ
 テ獨乙戰艦ノ軍裝ヲ命セラレ(本法第十四條並ニ第十五條ノ第五解參看)又ハ獨乙士官
 カ外國ノ他邦ト戰端ヲ開キアル牙營ニ派遣ヲ命セラレタル如キハ之ヲ包含セス然レ

ト如此キ軍人ハ本條外ノ規則ニシテ適用スヘキモノアルナリ

[第四解、交通杜塞] 原被告ノ交通杜塞地ニ滞在ストハ例ヘハ合圍地、氷合、洪水、傳染病ノ
 爲メ衛生警察ノ隔絶等ヲ云フ

[第五解、職權ヲ以テモ亦] 原被告ノ訴訟代人又ハ對手人ハ審理延期ノ申立ヲ爲シ得ル
 ハ言ヲ俟タス然レモ裁判所ハ必スシモ之ヲ允許セサルヘカラサルノ義務ナシ
 訴訟代人ノ存在スル時ハ原被告ノ障碍ト爲スヘラカス何ントナレハ其代人ハ彼ノ期限
 宥恕ノ如キ一種原被告本人ノ爲メ保護セラル、所アルヲ以テノ故ナリ

第二百二十五條 [延期ニ付キテノ手續ニ關スルノ條]

審理延期ニ付キテハ受訴裁判所ニ申立ツ可シ此申立ハ裁判所書記ニ
 口述シテ調書ニ記載セシムルコトヲ得

是ニ付キテノ裁判ハ豫メ口頭審理ヲ要セスシテ爲スコトヲ得

[第一解、理由説明] 此條ノ理由説明ニ付キテハ本法第二百十七條第一解ヲ參看スヘシ
 又本條制定ノ沿革ニ付キテハ即本法第二百十九條並ニ第二百二十條ニ對スル第二解ヲ
 參照スヘシ而シテ北部獨乙聯邦草案ニハ本條ノ如キ通則ヲ掲ケスシテ只本法第二百二
 十四條ノ場合ノ爲メ口頭審理ヲ要セスシテ裁判シ得ルノ規則ヲ明示ス其他ノ各草案ハ

皆同一ナリ

〔第二解、解釋〕 受訴裁判所ニ付キテハ本法第九條ノ第一解第三解ヲ參看スヘシ而シテ裁判所書記ノ調書ニ就テ筆記セシムルヲ申立得ルモノト允許スルニ依レハ即代言人訴訟ニ在テモ代言人ニ憑ラスシテ之ヲ爲シ得ルナリ〔本法第七十四條第二項參看〕

豫メ口頭審理ヲ要セストアルト雖モ復タ對手人ヲシテ陳辯ヲ爲サシメ又ハ裁判官特別ニ口頭審理ヲ爲サシムルヲ禁止スルノ義ニハ之レアララス〔本書凡例參看〕

抑本條ハ當ニ本法第二百二十三條第二百二十四條ニノミ相連繫シアルニ非ラス却テ又他ノ延期ノ場合ニモ及ホスナリ獨リ此條ハ即裁判官ニ審理延期ノ權ヲ與フルヲ示シタルナリ〔本法第二百十七條第一解及ヒ第二百二十九條並ニ其第三解參看〕

第二百二十六條〔審理ノ中止及ヒ延期ノ効力ニ關スルノ條〕

審理ノ中止及ヒ延期ハ各期限ノ進行ヲ止メ及ヒ中止又ハ延期ノ終リタル后更ニ全期限ノ經過ヲ始ムルモノトス

中止又ハ延期ノ間ニ於テ原被告ノ本案ニ付キ爲シタル訴訟上行爲ハ他ノ一方ニ對シ法律上ノ効力ナキモノトス

口頭審理ノ結局後ニ爲シタル中止ニ因リ其審理ニ基キ爲スヘキ裁判

ノ言渡ハ之ヲ妨ケサルモノトス

〔第一解、理由ノ説明〕 審理ノ中止ト云ヒ延期ト云フモ其結果ニ至テハ更ニ相異ナル所之レアララス〔然シ下ノ第五解參看〕乃兩ツナカラ事件ノ行動ヲ停止シ中止又ハ延期中ニ

原被告カ本案ニ付キテ爲ス〔審理再開時期スルノ行爲ニ反ス但再開時期スルニ付キテハ單ニ本案ノ審理ノ爲メニスル呼出ヲ包不得ルノミ〕訴訟上ノ行爲ハ法律上ノ効力ナカラシメ〔「バイルン」國訴訟法第四百九十二條、ハンノフル國草案第二百十六條北部獨乙

聯邦草案第三百八十一條第三百九十四條參看〕且兩ツナカラ能ク各期限殊ニ不變期限ノ經過ヲ停止シテ其中止又ハ延期ノ解除后新タニ期限全部ノ進行ヲ始メシムルナリ蓋

此更ニ全期限ノ進行ヲ始メシムルノ規則ハ一ニハ能ク其手續ヲ省約セシメ且期限計算ノ紛議ヲ防遏スルニ適切ニシテ一ニハ若シ審理再開ヨリ其殘剩ノ期限ノミヲ保タシムルモノト爲スルハ必要ナル時間ノ不足ヲ感セシメサル保護上ニ缺クヘカラサル所トス

〔「ハンノフル」國訴訟法第五百一十一條、バイルン國全上第二百一十一條第四百九十二條「ウエルトムベルグ」國全上第二百九十三條、マデン國全上第一千二百一十一條、李漏生國草案第七百五十六條（二）第七百六十二條、ハンノフル國草案第二百十六條「サックセン」國草案第五百六十三條北部獨乙聯邦草案第三百八十一條第三百九十四條參看〕

裁判ハ未タ爲サ、レモ其裁判ヲ爲シ得ヘキ口頭審理ハ已ニ結了シタル以上ハ更ニ原被告ノ行爲ニシテ要スヘキモノ之レナキナリ故ニ之レヲ遮斷スヘキノ成果ハ存スルコナリ且僅ニ殘リアル裁判ノ宣告ヲ妨クルノ理由アルヘカラス(本法第二百八十三條第二項九十四條參看)蓋本條第二項ノ規則ハ即「ゲンフ」市府訴訟法第二百七十四條、ハンノ「國全上第七十條」ウエルテムベルグ「國全上第二百九十三條」バイルン「國全上第四百九十一條」李滯生國草案第七百六十一條第七百六十三條、ハンノフル「國草案第二百十五條」ト全ク相齊シキ所ナレモ之ニ反シ法朗西訴訟法第三百四十二條第三百四十三條ハ全ク本法ト其主義ヲ異ニシ(本書凡例一般ノ理由説明第二回參看)漸ク法廷ニ於テ辯論ヲ始ムレハ即審理中止ヲ爲スヘカラサルモノト爲シ得ルノ規定ナリ

〔第二解、制定ノ沿革〕 北部獨乙聯邦草案第二百八十一條ニ於テハ本條第二項ノ規則ハ審理再開ノ爲メ對手人ヨリ呼出ヲ爲スノ行爲ニ及ホサスシテ此呼出コ付キテノ行爲ハ限外ナリト明示セリ然レモ是レ固トヨリ言テ俟タスシテ明亮ナル所ニテ本條ニ之ヲ剛除シタルハ妥當ト云フヘキナリ加之同草案ニハ本條第三項ノ規則ヲ掲ケス其他ノ各草案ハ悉ク本條ニ同シ而シテ須ク本法第二百十九條並ニ第二百二十條ニ對スル第二解ヲ參看スヘシ

〔第三解、期限ノ進行ノ停止〕 「各期限」ナル語ハ即不變期限ヲモ包含シ就中本法第三百四條ノ故障申立期限ヲ包含ス(上ノ第一解及ヒ本法第二百十七條第一解參看)之レニ反シ本法第二百十二條第三項及ヒ第五百四十九條第二項末段ノ最長期限ハ必ス公法上ノ理由ニ基テ確定シタルカ故ニ(本法第二百十一條並ニ第二百十二條ノ第六解參看)審理ノ中止又ハ延期ノ爲メ動カサルヘカラサルモノト爲スナリ

〔第四解、訴訟上ノ行爲〕 之レコ付キテハ上ノ第二解及ヒ第一解ノ括弧ヲ參看スヘシ
〔第五解、裁判ノ言渡〕 本條第一第二ノ兩項ニハ中止及ヒ延期ト相並示シアリテ獨リ第三項ニ至テ單ニ中止ト明示セリ然レハ本法慣用ノ用語法ニ依リ(本法第二百十七條第一解參看)特ニ中止ノ場合ノミナ指シタルモノト解スヘキナリ然レモ理由説明ニハ一言會テ之レニ及ハサルナリ(上ノ第一解)

而シテ其當ニ然ルヘキ所ハ本法第五百八十條ニ因テ判然ス乃離婚訴訟並ニ結婚上共棲回復ノ訴訟ニ付キテノ審理延期ニ於テハ其延期期限ノ經過前ニ言渡シタル裁判ヲ無効ト爲スナリ故ニ延期中(本法第四百一十一條第二百二十三條第二項第二百二十四條第二百二十九條第五百三十五條參看)ハ裁判ノ言渡ヲ爲スチ得サルナリ

又本條第三項ニ依レハ審理中止ノ場合ニ於テ裁判ノ言渡ノ外ハ之レヲ許ルサス他ニ許

シアル職權上ノ送達(本法第二百九十四條第三項第五百八十二條參看)モ尙ホ之ヲ爲サシメサルモノト知ルヘシ

第二百二十七條 (審理繼續ノ程式ニ關スルノ條)

中止又ハ延期シタル審理ノ繼續及ヒ本節ニ明示スル通知ハ書面ノ送達ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

〔第一解、理由ノ説明〕 凡訴訟上行爲ハ原被告自己ノ爲メ親ラ爲スノ格言ニ適シテ審理ノ中止及ヒ延期ノ再開ニ付キテモ亦其程式上ノ再開通知ナルト又ハ單約ナル通告ナルトニ拘ハラス口頭審理ニ於テ陳述セサル限りハ書面ノ送達ヲ以テ之ヲ爲スナリ加之此送達ノ程式ニ據ルキハ則之レヲ爲スト與ニ再始スル不變期限ノ初期ヲ知ルニ付キ缺クヘカラサル所ノ中止又ハ延期ノ終ル時期ヲ確定スルノ益アルモノトス(法朗西訴訟法第三百四十六條第三百四十七條「バイルン」國全上第四百九十四條第二第五百三十五條李滯生國草案第七百六十七條第七百七十一條第三「サックセン」國草案第五百六十五條北部獨乙聯邦草案第三百八十三條參看) 代理人訴訟ニ非ラサル場合ニ付キテハ本法第四百六十二條ヲ參考スヘシ

〔第二解、制定ノ沿革〕 宜ク本法第二百十九條並ニ第二百二十條ノ第二解ヲ參看スヘシ

而シテ各草案皆同一ナリ

〔第三解、書面及ヒ口頭申立〕 抑、本條ノ如キ着實ニシテ命令趣義ヲ有スル規則ニ對シ上ノ理由説明ニ於テ口頭審理ノ席ニテ申立ルヲ以テ足レリト爲スノ意ニ至テハ乃或ハ原被告兩造期日ニ出廷シ又ハ代理セシメアリテ而シテ適シ審理再開ノ申立若クハ通知ニ付キテ審理(本法第二百六十九條第二項第四項參看)ヲ爲ス場合ヲ想像スルノ外ハ實ニ推測シ難キ所ナルヘシ此難問ハ暫ク措テ問ハス對手人ハ其權ヲ保有スル爲メ書面ノ送達ヲ爲ス權利アルナリ

己ニ上ノ理由説明ニ舉述セル如ク本條ニ於テハ單ニ準備書面ノ交換ヲ論スルニ非ラサルヲ以テ本法第二百十條第一項ノ末段ヲ適用スヘカラサルナリ

〔第四解、呼出〕 審理再開ニハ必ス呼出ヲ包ネサルヘカラスト雖モ(例ヘハ本法第二百十七條第三項第二百二十三條第二項ノ場合尙ホ第二百二十二條第二解參看)其他ノ職權上ノ呼出ヲ命スル場合ニハ復タ如是キ呼出ヲ爲スヲ許サ、ルナリ(本法第九十一條乃至第九十三條第三解參看)

第二百二十八條 (審理ノ休止ニ關スルノ條)

原被告ハ審理ヲ休止スヘキコトヲ契約スルヲ得此契約ハ不變期限ノ

經過ニハ影響ヲ及ホサルモノトス

口頭審理ノ爲メニスル期日ニ原被告兩造共ニ出廷セサル時審理ハ其一方新タナル呼出ヲ送達セシムルマテ之ヲ休止スルモノトス

〔第一解理由ノ説明〕本條ニ依レハ審理ハ原被告兩造ノ契約上認諾ニ因リ又ハ口頭審理ノ期日ニ兩造共ニ出廷セサルニ因リ休止スルナリ(李滯生國千八百四十九年七月二十一日ノ宣令第二十五條千八百六十七年六月二十四日ノ全上第二十五條「ハンノフル國訴訟法第六十八條」ウウルテムベルグ國全上第二百九十二條「バイルン國全上第二百四十一條」オルデンボッルグ國全上第四百十四條「バデン國全上第二百九十六條」第二百九十八條「ブラウンシュウアイヒ國全上第一百十六條」ハンノフル國草案第二百十二條「ヘッセン國草案第二百八十一條」第二百八十二條「サククセン國草案第五百六十二條」北部獨乙聯邦草案第三百九十五條第四百二十八條參看蓋此規則ハ即爭訟上ノ審理ハ全ク原被告ノ意思如何ニ關シ裁判所ハ原被告ノ意ニ反シ濫ニ裁判ヲ爲シテ一件ヲ結了スヘキモノナラサルノ意義ヲ明示スル所ナリ必竟最必須ナル計利(家累等ニ因リ)ニ制セラレ訴訟ヲ爲シ得サルノ場合ナキニ非ラサレハ概シテ原被告ハ自主任意ノ行爲權内ニ在ル請求ニ付キ必ス訴訟ヲ爲シ了セサルヘカラストスルカ如キハ之レヲ允サ、ルヲ當然ト爲ス

ヘシ然レモ又原被告ノ任意ハ敢テ不變期限ノ經過上ニ關係ヲ有セシムヘカラサルハ即素ト此規則ハ公然ノ秩序ヲ保持スル公利上ノ爲メニ規定セル期限ニ係レハナリ(本法第二百二條以下ノ理由説明及ヒ第二百二條並ニ第二百三條ノ第一解參看)

原被告兩造共ニ出廷セサルニ因リ審理ヲ休止スルハ特リ其口頭審理ノ爲メニ指定セル期日ニ於テスルニ限レリ而シテ他ノ目的ノ爲メニスル期日ニ於テハ即概シテ之レヲ爲スヘクハ其審理ヲ繼續シ以テ不參ノ原被告兩造必ス不同意ヲ唱フヘカラスト推定シテ妨ケサルナリ殊ニハ裁判ノ言渡(本法第二百八十三條第二百九十四條)立證(本法第三百三十二條)ノ如キハ原被告兩造ノ出廷スルト否トニハ更ニ關係ナキ所ナリ之ニ反シ原被告ノ契約ニ因テ休止セシムルキハ右等ノ裁判所ノ行爲ヲモ亦休止セシムルモノトス法朗西國法制ニ一種奇異ノモノアリ是レ全ク羅馬律ヲ誤解セルニ因由セル所ニシテ遂ニ之ヲ細釋スルノ体裁ヲ以テ「ゲンツ」府法典「バデン國訴訟法第三百二條以下」「ヘッセン國」「バイルン國」北部獨乙聯邦「ハンノフル國」第一回ノ各草案並ニ李滯生國草案ニ採用スルニ至リタリ即審理ノ消滅ト稱スルモノ是レナリ而シテ本法原案ハ獨乙普通法李滯生國訴訟規則「ハンノフル國」「バイルン國」「ウウルテムベルグ國」及ヒ澳斯太利國「サククセン國」ノ草案ト同ク之ヲ採取セヌ蓋此法制タルヤ敢テ其必要ヲ感セスシテ獨乙聯邦ノ

多數モ之ヲ改正スルニ至レルニ付キテハ宜ク從來獨乙國法律心カ頻ニ之ニ反對シ且此法制タルヤ原被告ノ行爲權ヲ妨害シ又故意ニ出ル訴訟延滞ノ弊ヲ防クニ足ラヌ從テ實際ノ効用モ寡少ナルコトヲ觀察スヘキナリ

〔第二解制定ノ沿革〕 北部獨乙聯邦草案ハ本條ノ趣義ヲ同フスレモ己ニ第一解ニ述フル如ク又審理ノ消滅ヲ規定シアリ他ノ草案ハ本條ト同文ナリ又調書ニ付キテハ本法第二百十九條第二百二十條ニ對スル第二解ヲ參看スヘシ

〔第三解審理ノ休止〕 本條ハ訴訟靜止ノ第三類即訴訟人任意上ノ休止ヲ示定シタルナリ〔本法第二百十七條第二解參看〕而シテ本法ニ於テハ其契約上ノ認諾ノ方式ニ付キテ規定スルコトナク乃口述上又ハ書面上又ハ合意ニ出ル行爲上ヲ以テ爲シ得ヘシ此行爲上ノ合意ノ例ハ本法第二百二十八條第二項ニ在リ且其契約ハ期限ヲ確定シ又ハ確定セスシテ爲シ得ルモノトス〔本法第二百十七條第一解參看〕

原被告相契約シタルコトニ付キテ裁判所ニ申出ツヘキノ規則ヲ明示シアラスト雖モ而カモ彼ノ原被告共ニ不參ノキニ於テモ尙ホ開ク期日〔上ノ第一解參看〕又ハ職權上ノ送達等ノ爲メニ申出スヲ必要トスヘシ固トヨリ原被告ノ休止ノ契約ヲ知了セサル以上ハ其職權上ノ行爲ヲ自ラ抑止スヘキ事由アラサルハ論ナシ

〔期限〕 本條第一項ニ於テ不變期限ニ付キテ特ニ取除キ爲シタルハ〔本法第九十八條第一解第四參看〕即本法第二百二條第一項ニ明示セル原則ニ起因スルナリ

又原被告ハ送達ヲ爲サシメスシテ以テ不變期限ニ付キテモ亦契約上認諾ノ効力ヲ及ボサシメ得ヘシ

他ノ期限ニ付キテ契約上直ニ之ヲ休止セシメ得ルハ己ニ本法第二百二條第一項ニ依リ之レヲ原被告ノ意思ニ任カセアルモノニ限レリ例ヘハ本法第二百十三條第二項ノ期限ノ如キ即之レニ屬ス〔本法第二百十三條第三解參看〕然リ而シテ本法第二百十二條第二項ニ於ケル期限ハ少ク異ナリ此期限ハ固トヨリ不變期限ニ非ラサレモ又原被告ノ任意ニ因テ伸長スルヲ得サルナリ蓋本法ニ於テハ本條第一項ヲ以テ原被告任意ノ審理休止ヲ許ス原則ヲ明示シ〔本法第二百十七條第一解參看〕而シテ特ニ不變期限ノミナリ此例外ト爲シ乃其他總ヘテノ期限即本法第二百十二條第一項ノ期限ノ如キモ亦悉ク前段ノ規定中ニ屬スルナリ之レニ反シ本法第二百十二條第三項第五百四十九條第二項ノ最長期限ニ至テハ全ク原期回復ヲ廢滅セシムルモノニシテ前段ノ規定ニ屬セシムヘカラス〔本法第二百十一條第二百十二條ニ對スル第一解參看〕必竟此最長期限ハ公法上ノモノニシテ本條ノ以テ干涉シ得ヘキノ非ラサルナリ

〔第四解、期日ノ再定〕 本條第二項ハ即期日ノ更定ヲ爲スモノニシテ而カモ實際屢々行ハレ殊ニ代官八間ノ厚意ヨリ互ニ相認諾シテ利用スル所ナリ
從來ノ二三ノ訴訟規則例ヘハ字漏生國舊法ノ如キハ本條ノ規則ヲ上訴裁判所ニモ亦允許シアルナリ〔本法第四百八十五條第五百二十條參看〕

期日ノ再定ヲ爲スニ方テ原被告兩造不參スルコトハ其時刻ノ何時ヲ以テ之ヲ認定スヘキ乎又其不參ノ後レテ獨リ出廷セル一方不參ノ一方ニ對シ缺席裁判ノ請求ヲ申立得サル乎ノ問題及ヒ兩造共時限ニ後レテ出廷セルニ對シ裁判所ハ口頭審理ヲ開クノ責アルコトニ付キテハ宜ク本法第九十七條第三解乃至第五解ヲ參看スヘシ

期日再定ノ結果ハ審理休止ヲ明諾シタルノ結果ニ異ナルコトナキモノトス

〔第五解、呼出〔本法第二百二十八條〕〕 本條ノ場合ニ於テ爲ス呼出ハ必ス本法第九十一條以下ニ准據シテ原被告ヲシテ行ハシメサルヘカラス設ヒ職權上ノ呼出ヲ爲スコトアル場合ニ於テモ必ス然ルヘシ蓋審理ノ休止ハ渾ヘテ裁判所ノ行爲ヲ停止スルナリ〔本法第二百七十七條第一解第一項參看〕

呼出ノ期限ニ付キテハ本法別ニ之ヲ明定セス而シテ其原被告認諾スル場合ノ外ニテ上ノ第三解ニ述フル不變期限又ハ最長期限ニ係ラサル限リハ即時又ハ期滿得免時ニ至ラ

サル間ニ於テ之ヲ爲シ得ヘシ

呼出ニ付キ本條ノ第二項ニ於テハ單ニ中止セル審理ノ再開ノ爲メノ如キ明文ニ過キサレモ然カモ其第一項ニ於テモ之レヲ必要トスルヲ例トスヘシ

休止セル訴訟ヲ再開スルノ別方法アリテ之ヲ審理ノ繼續ト爲スノ規則ハ本法ニ採用シアラス〔上ノ第一解第三項參看〕

第二百二十九條〔上訴ニ關スルノ條〕

本節ノ規則又ハ他ノ法律上ノ規則ニ依リ審理ノ延期ヲ命シ又ハ之ヲ拒絕スルノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲シ其拒絕ノ場合ニ付キテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〔第一解、理由ノ説明〕 一般ノ理由説明ニ説述スル所本法第二百十七條第一解第五項參看ニ依レハ則本條ノ意義ハ裁判所ハ只法律ノ規定ニ遵テ審理ノ延期ヲ命シ得ヘキコトヲ示スニ在ルナリト

又本條ニ對スル理由説明ニ曰蓋審理停止延期ノ申立ヲ拒絕セル場合ニ付キテハ簡約ヲ主トスル即時抗告ヲ以テ適當ナル上訴トスヘシ乃審理繼續ノ爲メ且其權利上ニ確定ニ齊シキ動カスヘガラサル基礎ヲ鞏固ナラシムル爲メ良制トスルナリ云々

〔第二解、制定ノ沿革〕 李滬生國草案ハ審理延期ノ申立テ拒絕スル場合ニ付キ尋常ノ抗告ヲ許セリ此他ノ各草案ハ皆本條ニ同一ナリ
 國議院委員ハ北部獨乙聯邦草案第三百九十三條ニ倣フテ裁判官ハ只訴訟法ニ於テ規定スル場合ニ限り審理ノ延期ヲ命シ得ルモノト本條ヲ修正セントノ動議ヲ起シタリ然ルニ反對論者ハ之ヲ不可トス何ントナレハ本條ハ固ト本節其他ノ帝國法律各聯邦法ニ規定スル場合ニ限り審理ノ延期ヲ爲スヲ許ルスノ意義ヲ示スニ止リ且本法實施法第十五條第一裁判所編制法實施法第三條裁判所編制法第十四條第四ヲ引テ一朝戰亂ヲ發ラクニ方リ國會ノ閉期中ハ軍人訴訟ヲ延期セシムルノ權ヲ皇帝ニ特有セシメサルヘカラサルノ事例ヲ述ヘタリ(然シ第二百二十四條第一解參看) 遂ニ右ノ動議ハ自ラ取消シ其第二讀會ニ於テ異議ナク採用スルニ至レリ

〔第三解、裁判所審理ヲ延期スルノ權〕 本法第二百二十三條第二百二十四條ニ示ス審理延期ノ場合ハ本法中之レニ限ルニ非ラサルコトハ即本法第六十二條第三百二十九條第四百十條第五百八十條ニ徴シテ知ルヘシ(本法第二百十七條第一解第五項參看)而シテ本條ノ明文ニ「他ノ法律上ノ規則」トアルニ因レハ其單ニ訴訟法ニ局限セサルハ明亮ニシテ且上ノ第一解第二解ニ說述スル所ニ因リ延期ヲ允許スヘキハ帝國法律本法實施法第十

三條)及ヒ帝國法律ヲ以テ當時仍ホ有効ト視認セル各聯邦法(本法實施法第十四條第一項)ノ規定ニ據ルモノト理會スヘシ此聯邦法トハ即本法實施法第三條第二項ニ准據シテ裁判所編制法第十四條ヲ以テ有効ナリト定メタル各聯邦法モ亦屬スルノ意ナリ然ルト雖モ各聯邦ハ更ニ審理延期ノ事由ヲ隨意ニ制定シ得ルモノトハ誤解スヘカラス
 〔第四解、抗告〕 本法第五百三十條及ヒ第貳百貳十五條第二項トニ照セハ即申立拒絕ノ場合ニ限リテ尋常ノ抗告ヲ許シアレモ反テ本條ニ於テハ審理延期ノ申立テ拒絕セラレ、場合ニ付キテハ即時抗告(本法第五百四十條參看)ヲ許ルンテ而シテ其申立テ允可スルニ付キテハ尋常ノ抗告ヲ爲スモノト定メタリ

理由ノ説明(上ノ第一解)ニ於テ審理延期ノ申立テ拒絕スル裁判ノ確定ニ付キ說述スル所ハ即本法第五百四十條第三項ニ照シテ明亮スヘキナリ

訴訟法釋義第一卷ノ後ニ書ス

元來著述者ハ本書ノ簡約ニシテ而カモ明確ヲ期シタリト雖モ左ニ捨ツヘカラサルノ材料饒多ナルカ爲メ遂ニ一大冊子ヲ爲スニ至レリ是ニ於テ乎更ニ提携ノ便ヲ計リテ之ヲ二卷ト爲ス而シテ之ヲ二卷ニ分ツニ訴訟法第一篇ヲ以テ上卷ト爲スヲ良シトス

ヘシ何ントナレハ即此一篇タルヤ固ト本法ノ通則ヲ序列セルモノニシテ下卷ノ第二篇乃至第十篇ハ悉ク之レヨリ出ル所ナルヲ以テナリ故ニ全篇ノ基礎タルヘキ第一篇ニ於テハ解釋モ亦精細ニ舉述セサルヘカラス第二篇以下ニ至テハ前出參看ト記シテ以テ省略シ得ヘキニ由リ下卷ハ更ニ短簡ナル解釋ヲ付スレハ即足レリ乃下卷ヲ以テ釋義ヲ終ルヲ得

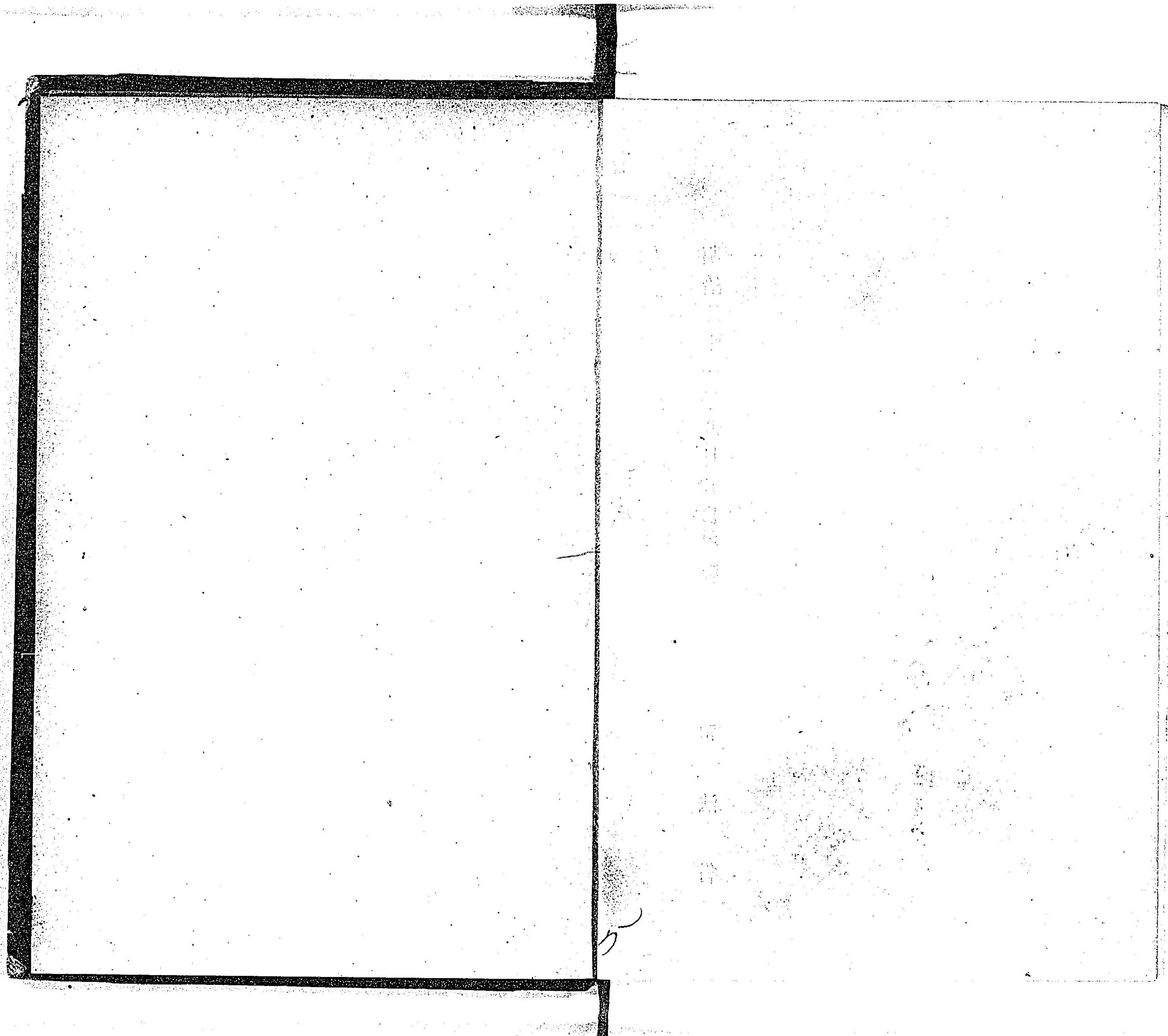
又注意ヲ乞ハサルヘカラサルモノアリ乃直接ノ審理即口頭審理ナル法制ハ全ク新タニ採用セラレタル所ノモノナルカ故ニ從來已ニ慣熟セル法制ナルニ由リ更ニ説明ヲ要セサルカ如キモノニモ亦解說セサル可カラサル所多クアルコト即是ナリ且集議院起稿ノ原案ニ添付シタル理由説明ヲ此釋義ニ採用シテ舉クル由縁ハ即二個ノ原因アリ乃此理由説明タルヤ固ト實際上及ヒ學理上甚タ偉大ナル價直ヲ有スルノ効業タルヘキヲ以テナリ一ニハ新定訴訟法實施ノ年尙ホ淺ク能ク之ヲ理會セント欲セハ必ス此理由説明ニ依頼セサルヲ得サレハナリ殊ニ況ヤ本法典ハ專ラ集議院議員ノ審

査修正セルモノヲ採リタルニ於テオヤ然リ而シテ如是キ理由説明ト雖モ亦著述者ニシテ必要ト爲スノ論評ヲ加ヘサルヘカラサル所アルハ又敢テ喋々ヲ要セサルヘキナリ而シテ著述者ハ此理由説明ノ原文ヲ抄出スルヲ努トメテ私ニ安排省略ヲ爲サス直寫シタルニ付キテハ敢テ別ニ之レカ説明ヲ要セサルヘシ「他ノ羽毫ヲ以テ自身ヲ裝飾ス」トノ嘲笑ヲ避ケント欲スル而已

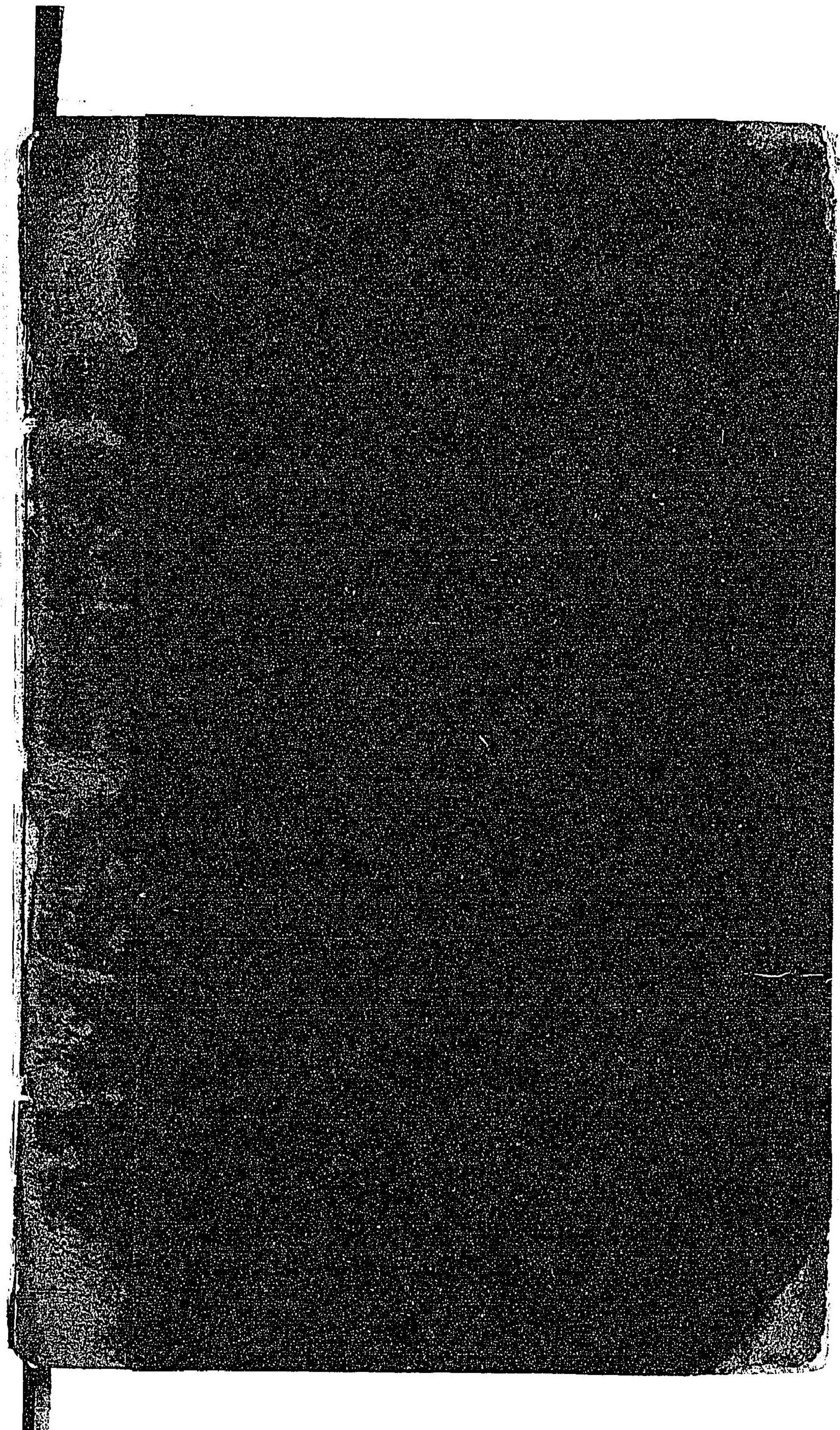
版權登錄

明治二十一年八月廿日出版

司法省



17
1
31



17
31

036946-000-1

17-31

独逸訴訟法釈義 第1卷

プッヘルト / 著

M21

BBS-0498



